

カトリック豊中教会 広報誌 第15号 復活祭号

2019年6月23日発行

発行者：主任司祭
印刷：広報委員会

〒560-0021 豊中市本町6丁目1番6号
TEL 06-6852-4110 FAX 06-6852-4277
HP: <http://catholictoyonaka.holy.jp/>



コイノニア

コイノニア(κοινωνία)はギリシャ語で聖霊の交わり・(初代)教会の交わりを意味します。

”現れて”確認された イエスの復活

主任司祭 ハインリッヒ 中野正勝 神父

寒暖の一定しない気候でしたが、春は確実にやってきました。今年も準備期間の四旬節と聖週間を経て、新しく洗礼を受けられた方々や初聖体の子供たちとともに、いのちの息吹と喜びに満ちた復活祭を迎えることができました。教会の庭では桜の大木に

いっぱい花が咲き、夜空には満月が輝いていました。所で、イエスの復活は当初使徒達には理解し難いことでした。ペトロもヨハネもトマスも、イエスが復活したと聞いても、それを信じて受け入れることは出来なかった。所がそれを一変させたのが、自分たちの所に、死んで墓に葬られたはずのイエスが”実際に現れた”という”現実体験”でした。ガリラヤのティベリアス湖畔で、復活して現れたイエスの言葉通りに網を打つと大漁に恵まれたペトロは、イエスが

現に目の前に現れて生きているという復活を体験した(ヨハネ 21・1 - 14)。ディディモと呼ばれるトマスは、他の使徒達がイエスの復活を告げても、自分で確かめて見なければ信じる事が出来なかったが、現実に目の前に現れ、指を傷跡に入れるようにと言われてイエスの傷跡を見たトマスは、イエスの復活を信じざるを得なかった(同 20・19 - 29)。神様のな

さることはまさに歴史的であり具体的である。何時、何処で、どの様に。「復活」ということは決して幻想的でも空想でも作り話でもなく、実に現実的である。この事実はまた、私たち現在に生きる者にとって、イエスの復活は確実に歴史的事実であったし、私たち

人間もすべて、この世の生活を締めくくった後、復活して神と共に生きるのだということを示している。この世がすべての終わりではない。復活して神様の許で生きるのであるから、復活を視野に入れた生きる意味、価値観、生き方をすることこそ人間の本当の幸せである。ペトロとトマスは復活したイエスを命を懸けて証した。キリスト者を牢に入れ迫害しようとダマスコに向かっていたサウロも(使 9・1 - 22)、復活したイエスの「サウロ、サウロ、何故私を迫害するのか」という声を



(トマスと復活したイエス)

実際に耳にして、回心し、復活のイエスのために命を捧げるようになった。私たち現在に生きる者も、「復活」という事実を受け止めて、復活して今生きておられるイエスと共に今を生きて行くことが、人間の生きる幸せの道であり、真の姿であり、人間としての命の開花であること(ヨハネ 14・1 - 6)を教えてください。神様、ありがとう！